

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2024年3月25日

事業所名 いきいきHAPPYSTEP津福

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	個室、共同での広い遊具スペースなどあり適切。	
	2	職員の配置数は適切である	12	0	個別で担当スタッフが付き手厚く対応	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	0	リスクの視点でも見ながら工夫している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	0	話し合いを定期的に行い進めている。カンファレンス、会議など全職員が多職種連携で実施している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	毎年調査とその意見に対して返答を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	ホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	会社自体で業務監査も行っており、業務に反映させている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	年間で計画をたてて実施し、毎月研修を行い対応している。週1回ケースカンファ、2ヶ月に1回勉強会を行っている。	研修等必要に応じて研修会の張り出しを行い自己研鑽の場の提供を今後も行っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	アセスに対して担当が分析して、多職種連携で作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	0	チェック表を活用している。全スタッフで共通して共同の書面で対応	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	チームカンファレンスも実施しながらすすめている。担当が立案後に全職種でプログラムに対して検討を行う。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	利用児さんの興味が継続するように工夫している。状態、時期、評価にによって適切にプログラムを変更している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	3	声掛けや会話などでは時期によって気にかけてコミュニケーションをとりながら行っています。	児のライフサイクルに合わせて今後、何が必要になってくるかなどカンファレンスなどの場で機会を増やしていけるように検討していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	3	個別療育のため2~3人との関わり程度になるが、集団は情報収集しながら課題を考え、取り組みの中には工夫している。個別、集団両方が実施できる環境をシフトにして明確にしている	集団で取り組んで頂きたいこと等を支援会議で他事業所にも共有しながら個別療育から集団に生かせるようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	日中に新規の利用児に対して、計画、目標、アプローチ、目標等の検討を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	1	終了後に時間の確保が難しいときもあるため、翌日には振り替えられるような時間を確保している。共有できるツールを使用して、全職員に共有、対応できる仕組みを作っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	全職員に共有、対応できる仕組みを作っている	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し	12	0	モニタリング後は担当が変更を検討、必要時他職種と共同で作成。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	12	0	お子様に必要な基本活動を複数以上組み合わせ合わせてサービスの提供を行っ		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	必要時には専門の担当も含めて参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	3	送迎は行なっていないが、行事等は家族からの情報で収集している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え	8	4	必要に応じて医療機関との情報共有や保護者様を通して情報収集を行う	今後、必要な場合は医療関係機関との連携を図れるようにしていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	2	常に連絡を取り、それぞれの役割、注意点などを明確化して、変化ある場合は状況を報告	就学前の支援会議で共有をし、まずは支援員さんにも情報提供を行っていきけるようにしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10	2	サービス移行や依頼がある場合、情報提供書を作成している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	2	研修の案内はスタッフの休憩室に掲示している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	12		交流などの機会は作れていないが、企画を考えていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	6		来年度からこども部会に参加するようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	利用後には担当が状況説明を行い、日頃の生活での課題、助言を行っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	12	0	利用後には担当が状況説明を行う際に、相談がある時には助言を行っている	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	時間を確保して、文章での説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行う	12	0	利用後には担当が状況説明を行う際に、相談がある時には助言を行って	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	12		保護者会など開催は出来ていませんが、検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	報告書を作成し改善案を考えている苦情を報告書として、まとめ事業所間での共有を行い速やかに対応している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	ブログやインスタで発信。	
	35	個人情報に十分注意している	12	0	スタッフには契約書を取り対応。日頃の業務にも最新の注意を行っている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	PECS等必要に応じて使用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	12		行事を行なっていないため、今後検討する

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	12	0	BCPに沿って定期的に対応、教育をしている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	BCPに沿って定期的に対応、教育をしている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	BCPに沿って定期的に対応、教育をしている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	10	2	虐待に関しては研修を1年に1回は実施し、身体拘束についての指針を理解する機会を設けている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	12	食事の提供をおこなっていない	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	毎日、ヒヤリハットの事案抽出、対策検討。月30件近い対策が出ている	